

『宝性論』における dharmakāya の語義について

——果・因・縁としての法身——

SRISSETTHAWORAKUL Suchada

『宝性論』は、如来蔵思想に基づいて、「七種金剛句」を通して如来蔵を有する衆生が如何に成仏するかを説示した論書である。この論書を研究するためには「三宝」と「宝性」の関係を理解する必要があるため、まず『宝性論』に説かれる「七種金剛句」と「三宝」と「宝性」について考察する。次に『宝性論』における「三宝」と「宝性」の関係を踏まえながら、この論書における dharmakāya（法身）の語義の一端について考えて見たい。

1. 『宝性論』における「七種金剛句 (vajrapada)」

『宝性論』では、七種金剛句、すなわち、(i) 仏、(ii) 法、(iii) 僧、(iv) 界、(v) 菩提、(vi) 徳性、(vii) 仏業、を論の主題項目として論典の内容を説明している。七種の金剛句のそれぞれは最初の仏から順次に関係のあることが示される。そして、この七つの項目は二つのグループに分けられる。前の三句（仏、法、僧）は三宝であり、それが次第に生起し成立し確立することを表示する。残りの四句、すなわち界（性）、菩提、徳性、仏業は、三宝の生起にふさわしい因と縁の成立を説くものである¹⁾。

2. 『宝性論』における「三宝」

(1) 「仏宝」

仏たること（仏宝）には八種の徳性があるとされる。すなわち、無為性、無功用性、他に依処せずに悟ること、智、悲、力、自利の成就、利他の成就である。

八つの中、最初の三つの徳性は仏たることの本性に関するもので、それらによって自利の成就がある。続く三つは先の三つを得ることによる徳性であり、それらによって利他の成就がある。したがって、『宝性論』の中で仏たること（仏宝）は自利と利他の二つの側面から語られる。しかし、同時に、

如来たることは無為であり生起しない特質であっても、そこから無功用に一切の等覚者たちのすべての所作が、輪廻の究極まで、倦むことなく、断絶することなく生ずるのである。(RGV p.8)

とも説かれているから、仏たること（仏宝）の根本は無為の法身として顕現することにあることは明らかであろう。

(2) 「法宝」

法宝は仏宝から出現する。法宝にも八種の徳性があるとされる。すなわち、不可思議性、無二性、無分別性、清浄、顕現すること、能対治性、離貪、離貪の因である。法宝は離貪の法であり、それはさらに離貪（滅諦）と離貪の因（道諦）に分けられる。したがって、法宝たる離貪の法は清浄な二諦を相とするとも言われる。また、離貪としての滅諦は如来の法身そのものでもあり、離貪の因としての道諦は如来の法身を体得する因でもある。つまり、ここでの法宝は如来の法身の徳性とその因なるもの（法）であると考えられる。

(3) 「僧宝」

法宝から僧宝が出現する。この僧宝は不退の菩薩衆であると説かれる。不退の菩薩衆である僧宝は二つの形相によって各自の内における知見が清浄であるとされる。二つの形相とは、「如実であること（如所有性）」と「あらん限りなること（尽所有性）」とである。その形相によって、各自の内における知見（覚ること）は清浄であり、その清浄さによって、無上の仏智から不退転であると示されている。彼らは二つの形相による各自の内における清浄な知見を有することで無上の徳性を具えているとされる。つまり、ここでの僧宝は、二つの形相による清浄な知見が重視されているのである。

三宝は仏教徒にとっての帰依処である。その場合、世間的には、仏宝とは仏陀・如来のことであり、法宝とは仏陀の教えであり、僧宝とは仏教の僧侶の衆であると考えられる。しかし、出世間的な意味では、教義的な立場によって違いが見られる。『宝性論』における金剛句としての「三宝」は、仏は眼で見ることとはできず、法は言葉で表せず耳で聴くこともできず、〔僧〕衆は無為であるとされる²⁾。つまり、ここにおける「三宝」が出世間的な意味で用いられているのは明らかである。

3. 宝性

宝性は、性（有垢なる真如）である悟るべきものと、菩提（無垢なる真如）である悟りと、徳性（垢を離れた仏の諸徳性）である悟りの支分と、仏業（勝者の所作）である悟らせることの四つであり、七種金剛句の後の四つに相応する。それらは因と縁の二つに分けられる。性（界）は出世間法の種子であるから、それ（性）を清浄にすることによって「三宝」を生起する因である。菩提、徳性、仏業は、如来が菩提を等覚して十力などの仏の徳性によって仏の業（勝者の作用）をなす時、

(146) 『宝性論』における dharmakāya の語義について (S. SRISSETTHAWORAKUL)

それ（性）を清浄にすることによって「三宝」を生起する縁である。これら四つが因と縁として作用することが、「三宝の源泉」すなわち「宝性 (ratnagotra)」である。

(1) 因としての宝性（有垢なる真如・如来蔵）

「有垢なる真如」は悟るべきものであり、煩惱の殻から脱していないもので、如来蔵である。如来蔵では十種の義を密意して、最勝の真実智の対境たる如来性が確立される。十種の義とは (i) 自性の義と、(ii) 因の義と、(iii) 果の義と、(iv) 業の義と、(v) 結合の義と、(vi) 顕現の義と、(vii) 階位差別の義と、(viii) 遍行の義と、(ix) 不変異の義と、(x) 無差別の義とである。これらの中、前の六つにより如来性の内実が示され、後の四つにより如来性のあり方が示される。そのことが次のように説かれている。

要約して、以上の自性などのこれら六義による〔如来〕性は三つの階位（第七の義）において、三種の名によって知られる。(I-48)

すなわち、不浄なる階位においては「衆生界」という、不浄にして浄なる階位においては「菩薩」という、極清浄なる階位においては「如来」という〔名によって知られる〕。(RGV p.40)

(vii) 階位差別の義とは、自性などの六義（自性、因、果、業、結合、顕現）による〔如来〕性が三つの階位（階位差別）において、三種の名によって説示されることである。不浄なる階位においては「衆生界」と呼ばれ、不浄にして浄なる階位においては「菩薩」と呼ばれ、極清浄なる階位においては「如来」と呼ばれる。また、(viii) 遍行の義とは、これら三つの階位に如来性が遍行していることであり、(ix) 不変異の義とは、その如来性が三つの階位において雑染と清浄の両面として変わらないことであり、(x) 無差別の義とは、先の第三の極めて清浄な階位において正に清浄の究極に達したという特質を有する如来性に差別のないことである。

このように、第八義から第十義（遍行、不変異、無差別）までは三つの階位について説明されている。すなわち、如来蔵の十義では衆生界の領域を含む三つの法身の階位について説明している。つまり、有垢なる真如である如来蔵は雑染な衆生界、雑染と清浄な菩薩、如来の三つの階位を含んでいるのである。

(2) 縁としての宝性（無垢なる真如、垢を離れた仏の諸徳性、勝者の所作）

「無垢なる真如」とは、煩惱の殻からの転依の相を有したもので、如来の法身とも言われる。また「垢を離れた仏の諸徳性」とは、その同じ転依の相を有した

如来の法身における、出世間の十力など仏の諸徳性である。「勝者の所作」とは、同じそれら十力などの仏の徳性のそれぞれの無上の作用であり、止まることなく、終わることなく、倦むことのないものである³⁾。言い換えれば、垢を離れた仏の諸徳性と勝者の所作は無垢なる真如の徳性と作用であるから、無垢なる真如が中心的なものとして捉えられている。

4. まとめ

上述の「三宝」と「宝性」の説明をまとめると次のようになるであろう。

「三宝」について、要約すれば、「仏宝」とは、仏たることであり、無為の法身として顕現する。「法宝」は仏宝から出現し、如来の法身の法である。「僧宝」は法宝から出現し、各自の内における知見（如来の法身の法からの知見）と考えられる。すなわち、「三宝」は法身であり、「**果としての法身**」とも言える。

四つの「宝性」は、因としての「有垢なる真如」であり、縁としての「無垢なる真如」と「その徳性」と「その所作」である。「有垢なる真如」は、如来蔵のことであり、十義による説明では、衆生界を含み、法身の三つの階位として説かれ、三宝を生む「**因としての法身**」である。「無垢なる真如」は垢を遠離した後のものであり、如来の法身を指し、仏の領域に入っているから、同時に仏の「徳性」と「所作」も付随している。これら三つは「**縁としての法身**」である。

1) 「これら三つの基本句（仏・法・僧）によって、順次に、三宝が次第に生起し成立し確立することが知られるべきである。残りの四句（界・菩提・徳性・仏業）は、三宝の生起にふさわしい因の成立を説くものであると知られるべきである」(RGV p.3).

2) 「アーナンダよ、如来は実に不可見である。彼は眼で見ることはできない。アーナンダよ、法は実に言葉で表せない。それは耳で聴くことはできない。アーナンダよ、僧伽は実に無為である。それは身体をもってしても、あるいは心をもってしても、奉侍することはできない」(RGV p.2).

3) RGV p.21.

〈テキスト〉

E. H. Johnston, *The Ratnagotravibhāga Mahāyānottaratantraśāstra*, Patna: Bihar Society, 1950.
[略号 RGV]

〈キーワード〉 dharmakāya, 『宝性論』, 法身, 三宝, 如来蔵

(大谷大学大学院)